

明治記念大磯邸園及び 周辺の概況

① 大磯町の概況

② 明治記念大磯邸園の立地、まちづくりの方向性

③ 明治記念大磯邸園に関する人物及び邸宅の概要

④ 明治記念大磯邸園に関連する取組

大磯町の立地

大磯町は、神奈川県南部に位置し、高麗山、鷹取山などの山並みや、こゆるぎの浜などの海に象徴される豊かな自然を有する。

昭和43年(1968年)の第一次総合計画策定時から「紺碧の海に緑の映える住みよい大磯」をまちの将来像とし、美しい自然と由緒ある歴史、文化に恵まれた大磯を愛し、誇りを持つことにより、さらに住みよいまちづくりをめざしてきた。



大磯町の位置

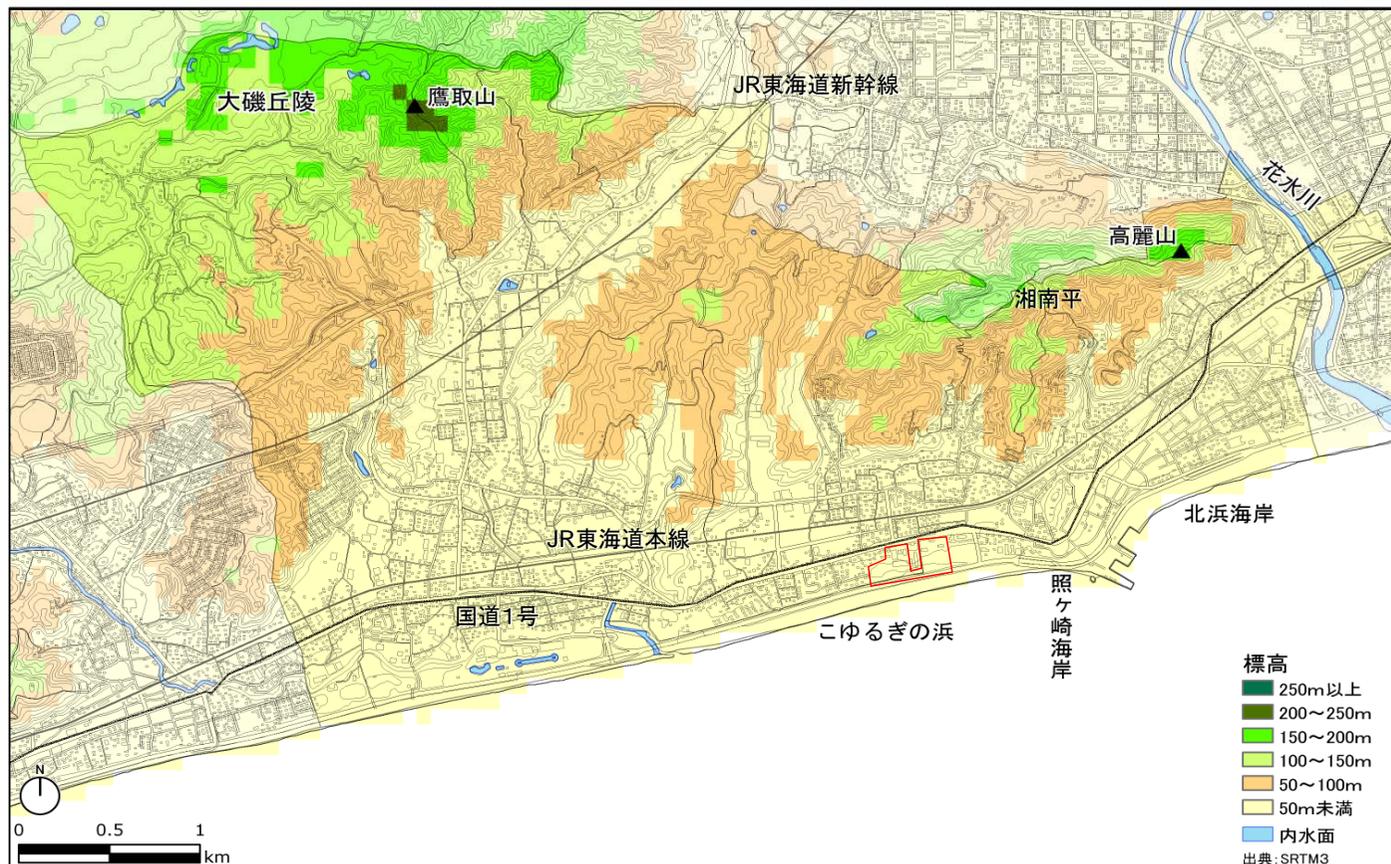


大磯町の全景(出典:大磯町景観計画(平成21年(2009))

町域面積の6割が丘陵地帯で、北側は、高麗山(標高165m)、湘南平(同181m)、鷹取山(同219m)等を含む大磯丘陵(大磯地塊、標高50~220m)がある。

これらの峰はほぼ東西に走り、平塚市との行政的な境界となるとともに、冬の冷たい季節風を遮り、温暖な気候をもたらす要因となっている。

山地の前面にはなだらかな丘陵性の地形が広がり、その南には、大磯町の中心をなす住宅地が広がり、東海道(国道1号)やJR東海道本線などの交通路が走っている。



大磯町の標高区分

海岸沿いに植林されたクロマツの砂防林が日本有数の白砂青松の景観を有している。
 海岸沿いの松林は、保安林にも指定されており、松くい虫被害の防除を行っている。
 海岸砂丘では、ハマヒルガオ等の砂丘植生も見られる。



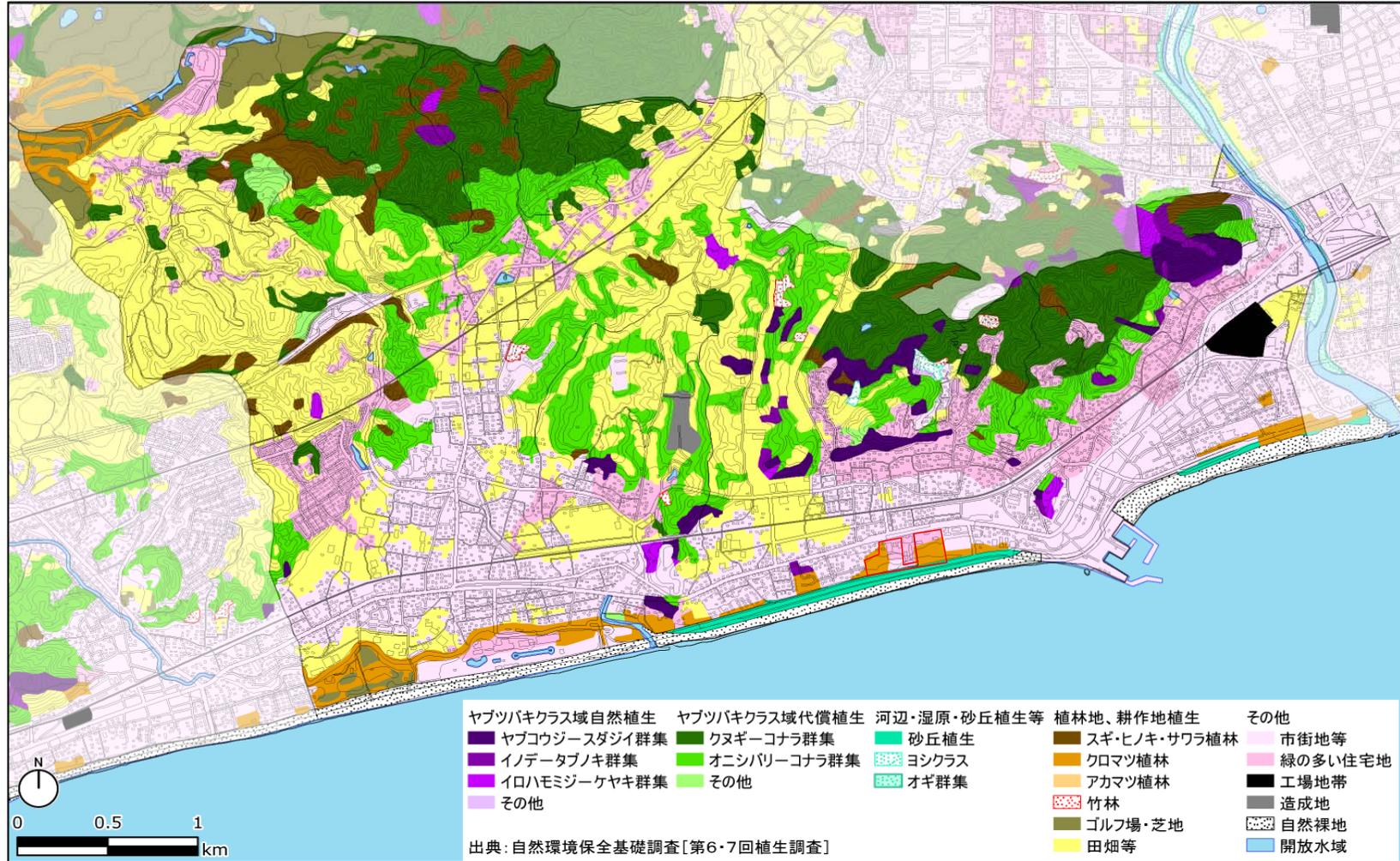
図 クロマツ(町の木:高木)



図 サザンカ(町の木:低木)



図 ハマヒルガオ(町の花)



大磯町の植生図(現況植生)

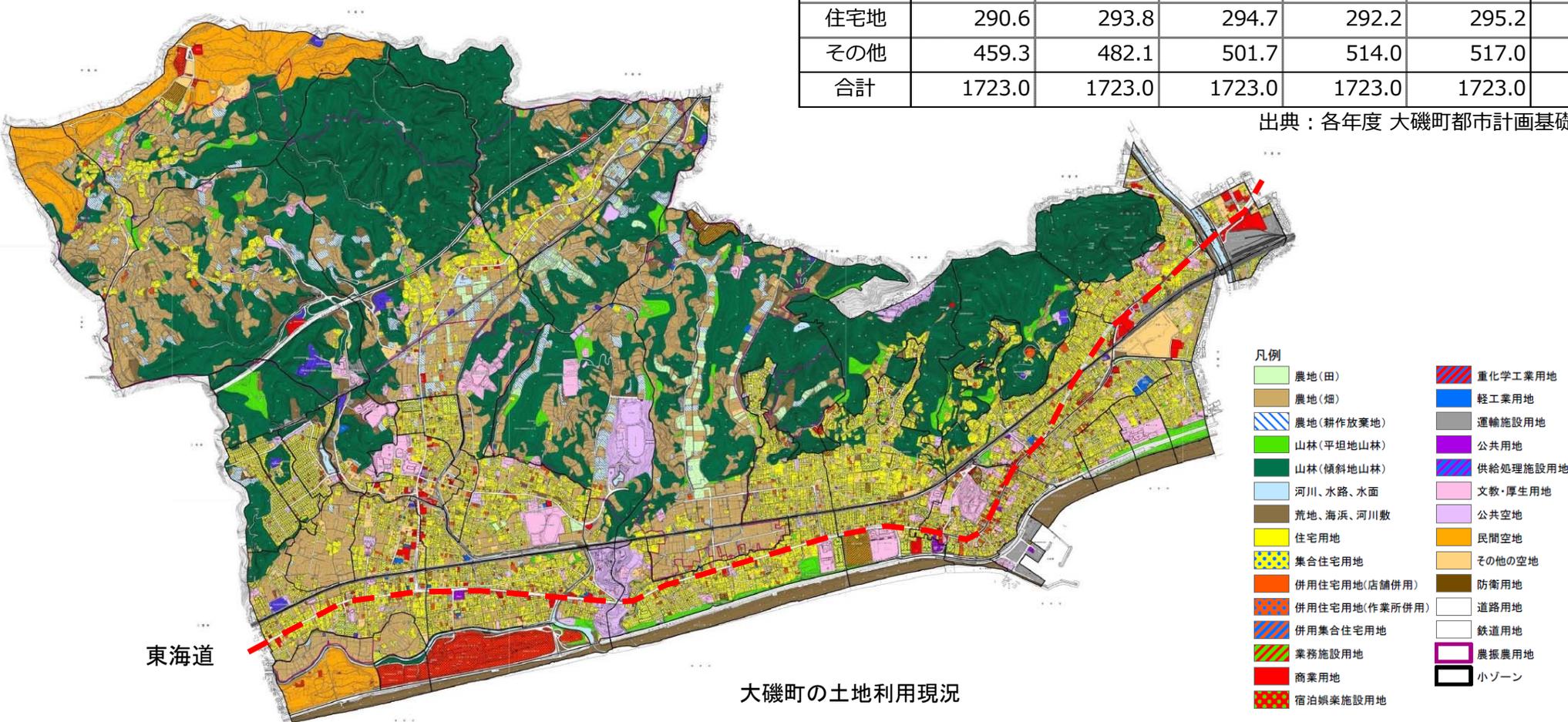
大磯町の土地利用

江戸時代の宿場であった旧大磯町の中心となる商業・業務地域は、東海道(国道1号)沿いの山王町、神明町、上町(北本町・南本町)、茶屋町であり、現在も住宅系の土地利用が連たんしている。

平成27年度時点の土地利用は、農林地は約911ha(町面積の約53%)で、20年間で約62ha減少している。一方、住宅系は約295ha(町面積の約17%)で、20年間で約5ha増加している。
単位：ha

	H7年度	H12年度	H17年度	H22年度	H27年度	H7~27年度 変化
農林地	973.1	947.1	926.6	916.8	910.8	-62.3
住宅地	290.6	293.8	294.7	292.2	295.2	4.6
その他	459.3	482.1	501.7	514.0	517.0	57.7
合計	1723.0	1723.0	1723.0	1723.0	1723.0	

出典：各年度 大磯町都市計画基礎調査 報告書



明治18年（1885年）



明治中期の大磯海水浴場(禰龍館繁栄之図)
(大磯町郷土資料館所蔵)

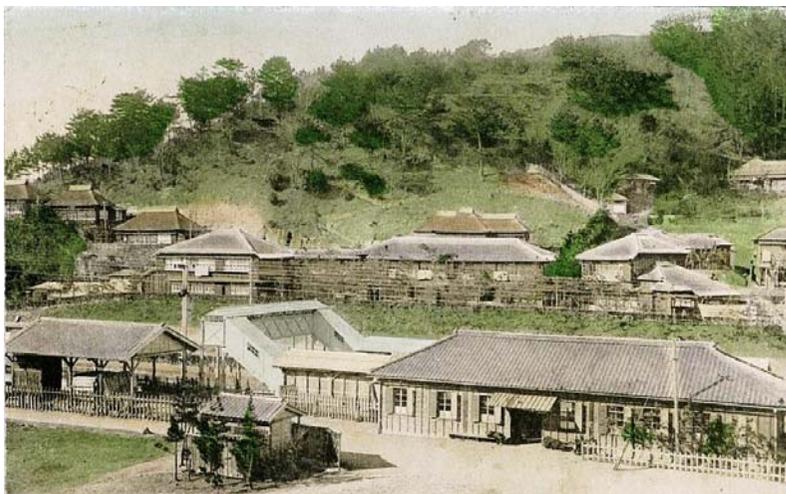
日本初の海水浴場の開設

松本順（初代陸軍軍医総監）の推奨により、日本初の海水浴場「大磯海水浴場」が開設。

海水浴は医療行為として始まり、保養地・避暑地として別荘の建設が増加。

明治30年代には、医療行為からレジャーとなり、多くの避暑客が海水浴場を訪れた。

明治20年（1887年）



明治後期頃の大磯駅(大磯停車場)

鉄道の開通(大磯駅の開設)

明治5年（1872）日本初の鉄道である新橋～横浜間が開通。

明治20年（1887）に横浜～国府津間の開通に併せて、大磯駅が開設。

鉄道の開通により、新橋から大磯までの移動時間は2時間に短縮され、別荘地としての発展に大きな影響を与えた。

明治20年頃(1887年～)

別荘地としての大磯

明治21年(1888)発行の「相陽大磯駅全図」には松本順や山縣有朋はじめ海軍軍医総監高木兼寛・旧佐土原藩主島津忠寛・警視総監三島通庸らの別荘がみられる。

なかでも、山縣有朋は大磯の別荘の草創期の代表的別荘として明治20年(1887)に別荘小淘庵おゆるぎあんを建てた。明治40年(1907)に小田原の古稀庵に移るまで存在した。



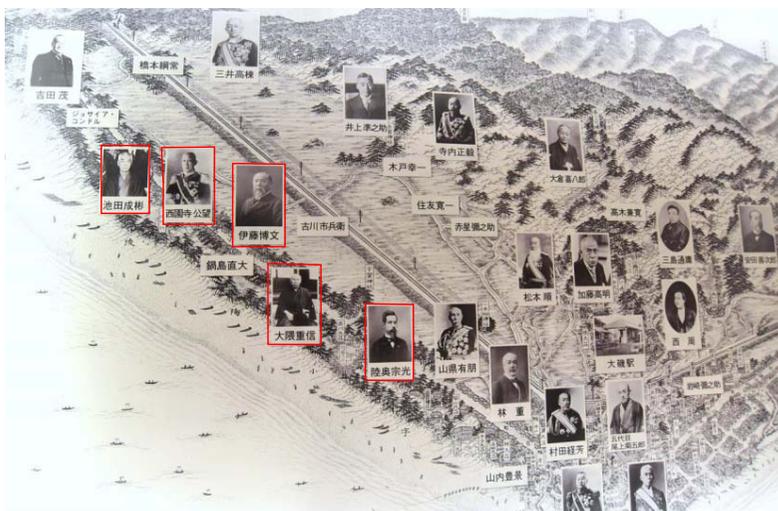
「相陽大磯駅全図」(1888) (大磯町立図書館蔵)

明治29年頃(1896年～)

滄浪閣の竣工と別荘の急増

伊藤博文の滄浪閣が明治29年(1896)に竣工したことで全国的に別荘地としての大磯が有名になった。なお、伊藤博文の本籍は翌明治30年(1897)より大磯町に置かれた。

明治22年(1889)に21軒であった別荘は明治40年(1907)には108軒にも増加し、さらに増え続けた。



大磯に別荘を構えた人々 (大磯町立郷土資料館蔵)

大磯町の歴史

大磯町における歴史的建物の状況

立憲政治の確立に重要な役割を果たした先人の建物が、旧伊藤博文邸を中心として、集中して残っていることは希有なことであり、これほどの「場」は他に例を見ない。

老朽化が進み保存状態もよくない歴史的建物もあり、対応が急がれている場でもある。

「明治期の立憲政治の確立等に貢献した先人の業績等を次世代に遺す取組に関する検討会(報告書)」より



大磯町では、1960年代以降、道路網の整備が進み、国道1号(東海道)などのバイパスとして小田原厚木道路、西湘バイパスが建設された。

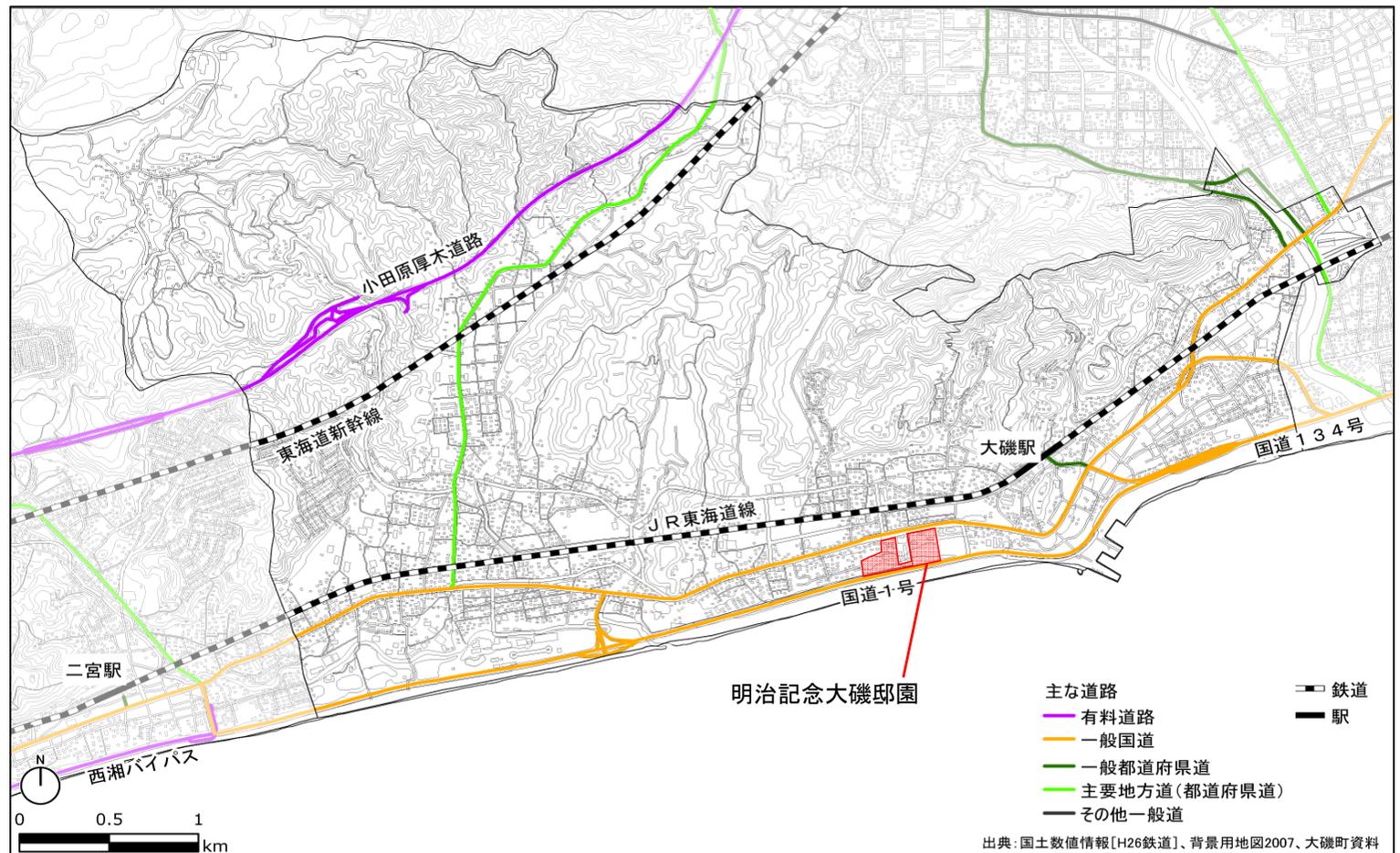
明治20年(1887年)、国鉄東海道本線旧・横浜駅—国府津駅の開通と同時に、大磯駅が開業。大磯駅は平成12年(2000年)「関東の駅百選」、平成21年(2009年)経済産業省の近代化産業遺産に認定された。



近代化産業遺産に認定された大磯駅



国道1号旧東海道松並木

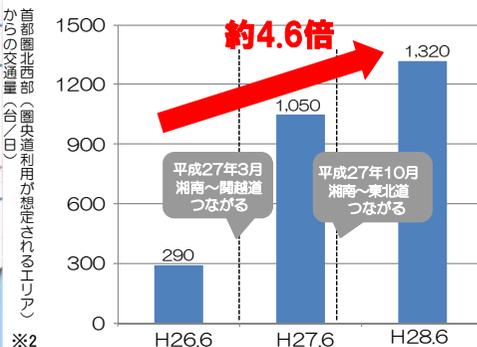


大磯町の主な交通網

大磯町の観光

大磯町を含む地域の観光動態

- 大磯町の近年の観光客数は、年間約90万人で推移。
- 圏央道の開通により、神奈川県外から湘南地域^{※1}への休日の交通量が約4.6倍に増加。



町内の主要な観光スポットである大磯海水浴場

※1 湘南地域を走行した車両：茅ヶ崎西IC、茅ヶ崎海岸ICから出入し/ETC車(休日、小型車・二輪車含む)を1/2したもの
 ※2 東京西部・群馬・埼玉西部・栃木の合計
 国土交通省記者発表資料(H28.10.27)を基に作成 【出典】NEXCOデータ(休日)

大磯町内の歴史資源の例

旧島崎藤村住宅 (町指定有形文化財)



- 昭和16(1941)年に「左義長」を見に来た島崎藤村(1872-1943年)は温暖な大磯の地を気に入り、永眠するまでの2年余を、三間の平屋建ての民家で過ごした。
- 大磯町により一般公開
入場料無料、9時～16時

しぎたつあん 鴨立庵 (町指定有形文化財)



- 江戸時代初期の1664年に小田原の崇雪が西行法師の歌にちなみ、鴨立沢の標石を建て、石仏の五智如来像を運び草庵を結んだことに始まる俳諧道場。
- 大磯町により一般公開
大人300円(町内100円)
小人150円(町内50円)
9時～17時

旧木下家別邸 (国登録有形文化財)



- 大正元(1912)年に貿易商の木下建平氏が建築した現存する国内最古のツーバイフォー住宅。平成24年に国登録有形文化財に登録、景観重要建造物に指定。
- 平成22年に大磯町が取得し、保全活用を行う民間事業者を公募。平成25年にレストラン(大磯迎賓館)として開業。

大磯の左義長 (国指定重要無形民俗文化財)



- 小正月(1月14日前後)に大磯北浜海岸沿いで行われるセエノカミサン(道祖神)の火祭り。
- 平成9年に国指定重要無形文化財に指定。

① 大磯町の概況

② 明治記念大磯邸園の立地、まちづくりの方向性

③ 明治記念大磯邸園に関する人物及び邸宅の概要

④ 明治記念大磯邸園に関連する取組

明治記念大磯邸園の立地

明治記念大磯邸園は、旧伊藤博文邸(滄浪閣)を中心とした、旧大隈重信邸、旧陸奥宗光邸及び旧西園寺公望邸跡(旧池田成彬邸)の建物群とその周辺の緑地等の区域。

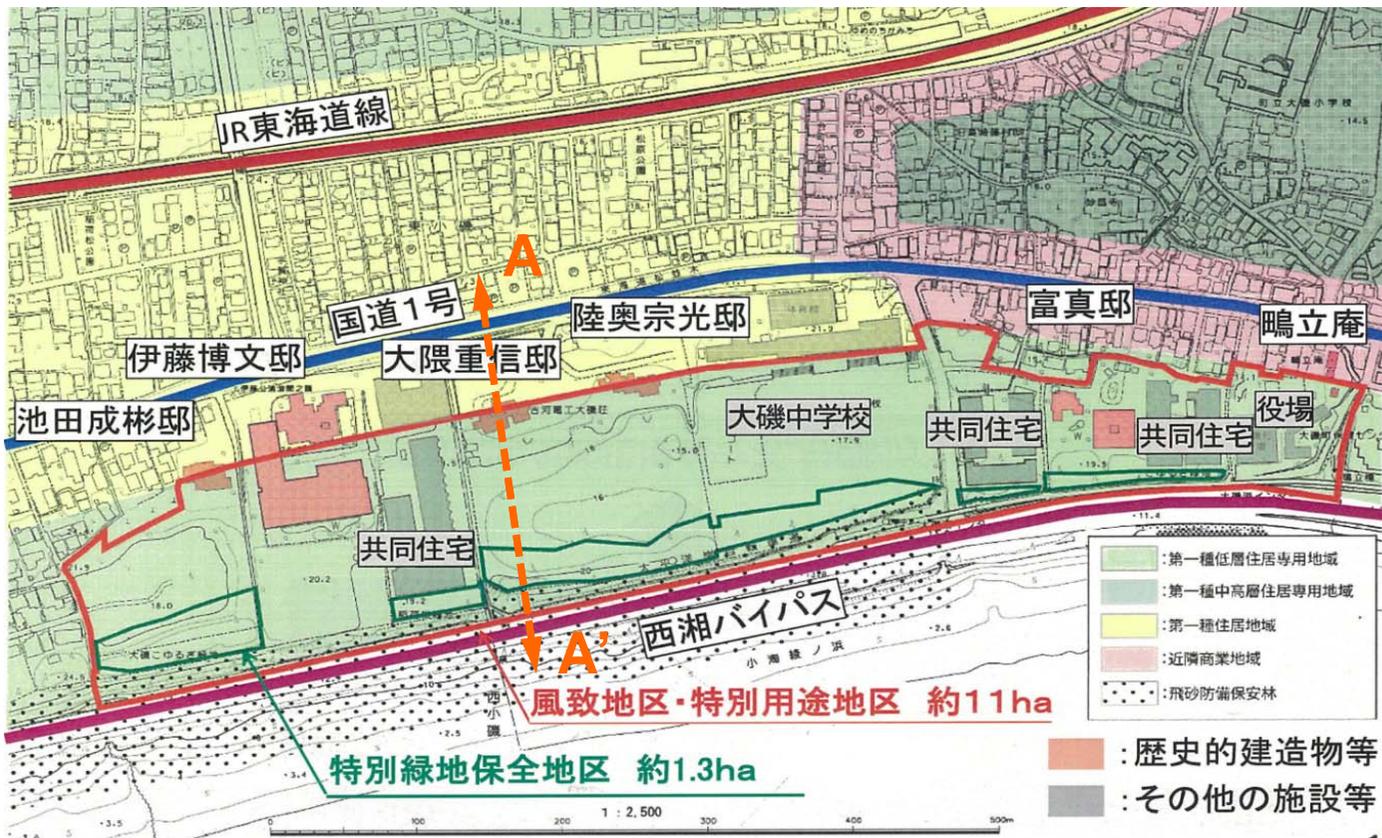
また、区域には、^{こゆるぎ}小洵綾海岸松林特別緑地保全地区のうち、邸宅群の敷地内の区域、大磯^{いなりまつ}こゆるぎ緑地及び稲荷松緑地を含む。



図 明治記念大磯邸園の概要
 (出典: 明治期の立憲政治の確立等に貢献した先人の業績等を次世代に遺す取組について(報告書))

都市計画上の地域地区

小湊綾海岸松林地区



特別緑地保全地区

都市において良好な自然的環境を有する緑地において、建築物の建築等の行為を制限し、緑を現状凍結的に保全。

風致地区(第3種)

周辺に良好な自然環境を有し、現に存する自然環境などと調和した利用がされるよう建築物の建築等を規制する必要がある土地の区域(高さ制限10m以下、建蔽率40%以下)。

特別用途地区

第一種低層住居専用地域の指定に関わらず、建築できる建築物を町条例で規定。

歴史的建造物を活かした新たな観光の核づくり事業の推進に資するものとして町が許可した場合、飲食店、ホテル・旅館、物販・サービス業の店舗、集会場、美術館・博物館等の文化施設の建築が可能。(いずれも床面積3,000㎡以下)

かながわグランドデザイン第2期実施計画（平成27年7月策定）

プロジェクト編2015-2018 柱Ⅱ 経済のエンジン 8 観光

横浜・鎌倉・箱根に次いで、海外にも強力に発信できる魅力的な国際的観光地を創出するため、城ヶ島・三崎地域、大山地域、大磯地域を新たな観光の核づくりの構想地域として認定し、その実現に向けて地域を盛り上げ、地元と一体となって、新たな観光地づくりを進めます。

かながわ都市マスタープラン（平成19年10月改定）

5 相模湾沿岸地域総合整備

○近代建造物と庭園を保全活用した交流・地域づくり

相模湾沿岸に分布する近代建造物や庭園を保全活用した、新たな手法による地域づくりを検討するとともに、都市公園の整備等により魅力ある公共空間の形成を図ります。

また、行政・県民・NPOなどの協働・連携による、地域の歴史や文化を保全・活用・発信する取組みを通じて、新たな交流が生まれる、魅力ある地域づくりを進めます。

当該地域における大磯町のまちづくりの方向性

大磯まちづくり基本計画（平成18年3月策定、平成28年6月一部見直し）

《全体構想》

2 大磯らしさを守り育む方針 2-2 魅力的な空間形成の方針

4) 風景の保全・創出の誘導指針

⑧ 歴史的・象徴的建築物のある風景

大磯には各時代の歴史的な建築物や町民にとって象徴性の高い建築物が数多く点在します。これら歴史的建築物等の積極的な保存・活用を図ります。また、その周辺に新しい建築物等をつくるに際してはその場所の特徴を読み取り、歴史的・象徴的建築物のある風景との調和を大切にします。

大磯町緑の基本計画（平成15年3月策定）

IV 緑地の保全と緑化推進の施策

6 歴史・文化的な環境の保全と活用

本町に点在する多くの神社仏閣並びに歴史的な建造物（近代別荘建築等）は、周辺の樹林地とともに良好な歴史的環境を形成しています。特に斜面地の緑や水辺などと一体になった自然と共生する環境（市街地の縁辺、海辺等）は本町特有のものであり、関連する法的な規制などによる保全を検討します。

また、地域における歴史・文化的環境を育むため、これを取り入れた景観形成や緑化の推進を図り、地域特有の環境保全と緑の環境形成を図ります（文化財の指定など）。

① 大磯町の概況

② 明治記念大磯邸園の立地、まちづくりの方向性

③ 明治記念大磯邸園に関する人物及び邸宅の概要

④ 明治記念大磯邸園に関連する取組

滄浪閣(旧伊藤博文邸)の概要(1/3)

初代内閣総理大臣 伊藤博文

明治18年(1885)に初代総理大臣に就任。内閣制度の創設(明治18年)、明治憲法の起草(明治20年)をはじめ、立憲政治の黎明期に大きな役割を果たした。

明治29年(1896)に別荘を小田原から大磯に移転し、「滄浪閣」と名づけた。明治30年(1897)には本籍を移して本邸として使用。明治を代表する政治家などが盛んに「大磯詣」を行った。大正12年(1923)の関東大震災後に再建された建物が現存。



初代 / 第5代 / 第7代 / 第10代 内閣総理大臣
生没年月日: 1841年(天保12年) - 1909年(明治42年)
出身地: 山口県



明治期の伊藤博文邸「滄浪閣」(大磯町提供)

「滄浪閣」の由来

中国古代の詩集「楚辞(そじ)」にあるとされ、青々とした波(滄浪)が綺麗なときは冠の紐を洗い、濁っているときは足を洗うという意味から、何事も自然の成り行きに任せて身を処するとの意味を表している。

滄浪閣(旧伊藤博文邸)の概要(2/3)

【諸元】

- 名称 : 滄浪閣(旧伊藤博文邸)
- 敷地規模 : 約17,280㎡(約5,230坪)
- 延床面積 : 1,254㎡(旧李王家別邸及び増築部分)
4,572㎡(ホテル経営時の結婚式場)
- 建築年 : 明治29年(1896)
- 構造 : 主屋(和)87坪 木造和風平家 茅葺
主屋(洋)70坪 レンガ造洋風2階建て 瓦葺
- 所有者 : 民間企業
- 設計者 : —
- 施工者 : —
- 文化財 : 一部が大磯町指定有形文化財



園庭(明治末期)



大磯滄浪閣の西洋館



明治末期の五賢堂



1992年頃の滄浪閣

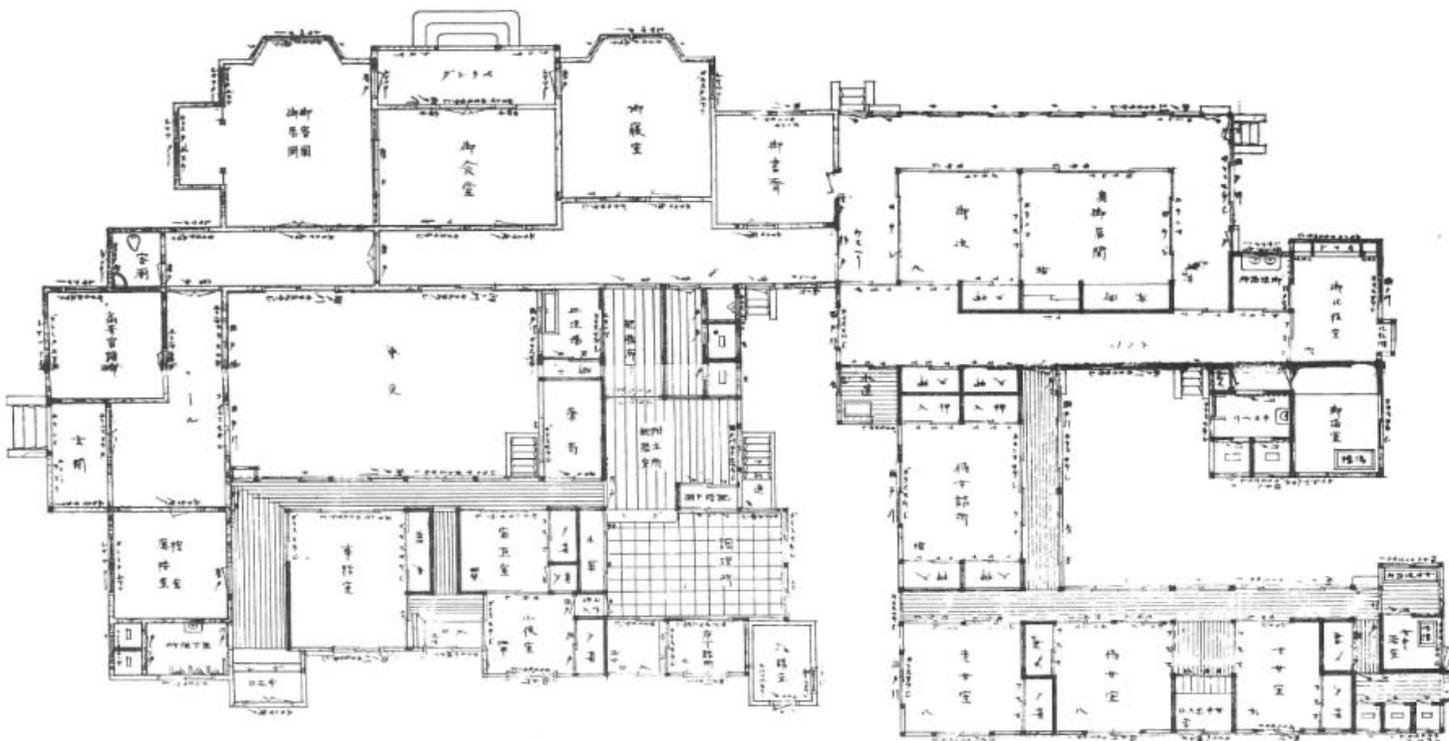
滄浪閣(旧伊藤博文邸)の概要(3/3)

【建築物の特徴】

昭和元年(1926)に旧材を使って再建。大正期モダニズムの雰囲気をもよくとどめる。南側の洋室棟と和室棟を中心に、洋室棟の北側には中庭を挟んで玄関・事務室棟と調理・配膳棟が続き、和室棟には棟続きで侍女棟が配置されていた。また、明治天皇から下賜された皇室の御用絵師・湯川松堂による杉戸絵が建て込まれていた。

【建築物の改築】

戦後、米軍に接收され軍人の施設として使用された。昭和26年に西武鉄道が購入し、昭和29年から平成19年まで大磯プリンスホテル別館として滄浪閣の名称を残しレストランを営業。この間に行われた改築等により、当初の状況をとどめているのは洋室棟と和室棟だけで、他の棟は屋根構造や軸組など旧状を残しているものの間仕切りや仕上げ材などは変えられている。



李裁克大磯別邸平面図
(出典:大磯町教育委員会『大磯のすまい』1992)

旧西園寺公望邸跡(旧池田成彬邸)の概要(1/3)

明治最後の内閣総理大臣 西園寺公望

明治15年(1882)、伊藤博文と憲法調査で渡欧。明治時代に就任した最後の総理大臣(明治44年8月～大正元年12月)。最後の元老として政界に大きな影響を与えた。

明治32年(1899)に大磯に別邸を建築。滄浪閣の隣のため「隣荘^{となりそう}」と名づけられた。

大正6年(1917)に別荘を譲り受けた池田成彬(大蔵大臣)が、昭和7年(1932年)に建築した洋館が現存。



第12代 / 第14代 内閣総理大臣
生没年月日: 1849年(嘉永2年) - 1940年(昭和15年)
出身地: 京都府



明治期の西園寺公望邸「隣荘」(大磯町提供)

旧西園寺公望邸跡(旧池田成彬邸)の概要(2/3)

【諸元】

- 名称 : 旧池田成彬邸
- 敷地規模 : 約14,520m²(約4,400坪)
- 建築面積 : 約815m²(約247坪)
- 建築年 : 昭和7年(1932)
- 構造 : RC造(一部木造洋風) 寄棟 瓦葺 リシン吹付
- 所有者 : 民間企業
- 設計者 : 中條精一郎(曾禰中條建築事務所)
- 施工者 : 竹中工務店
- 文化財 : —



西園寺公望:隣荘「陶庵」1899



旧池田成彬邸の南側外観: 1992



旧池田邸内部: 2017

旧西園寺公望邸跡(旧池田成彬邸)の概要(3/3)

【建築物の特徴】

関東大震災で麻布本邸を焼失した池田の要望により、地震に耐え得る構造としてコンクリートの厚さ4尺のベタ基礎を採用している。

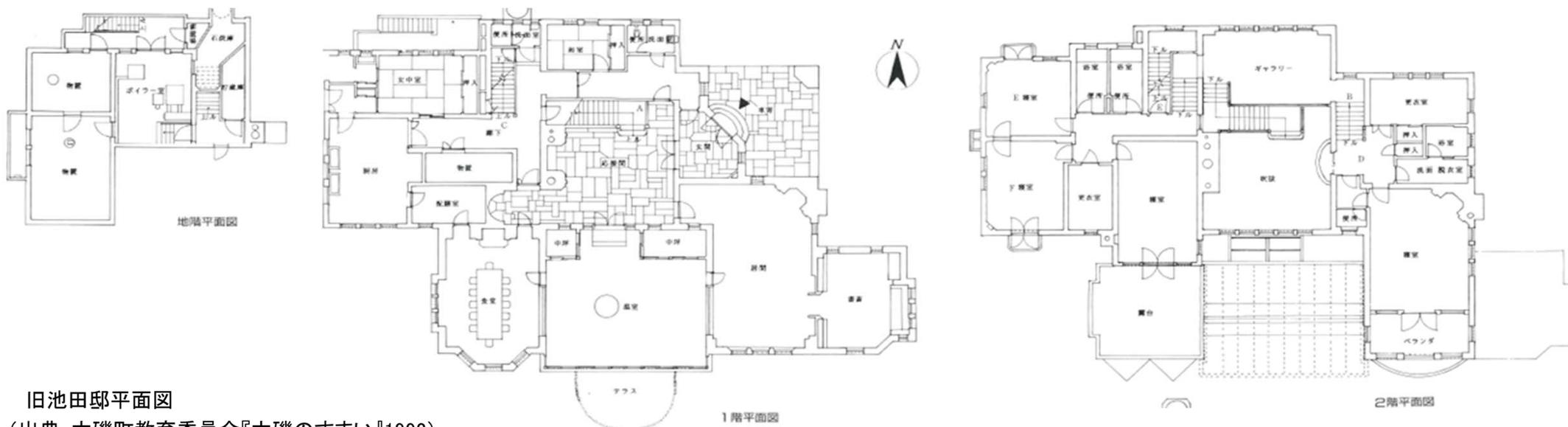
1階中央に吹抜けの広間があり、広間を中心として南側に書斎、居間、温室(サンルーム)、食堂と続き、西側が厨房と女中室等、北側が客人の運転手や付き人のための休憩室がある。

2階には客用と家族用の寝室や浴室等が配置されている。

地下にはボイラー室と石炭庫があり、ここから各部屋の熱源を供給している。

内部の意匠はチューダー朝英国風で、漆喰の壁に木のフレームが印象的なハーフティンバー様式を採用している。

天井や壁の補修は見られるものの調度品や照明器具は往時のまま維持されている。



旧池田邸平面図

(出典:大磯町教育委員会『大磯のすまい』1992)

旧大隈重信邸の概要(1/3)

日本初の政党内閣を組織 大隈重信

明治31年(1898)、憲政党を結成し、総理大臣として日本初の政党内閣を組織。
早稲田大学の前身となる東京専門学校（明治15年創立）の創立者。

明治30年(1897)に大磯に別邸を建築。住居部分はほぼ往時のまま現存。



第8代 / 第17代 内閣総理大臣
生没年月日：1838年(天保9年)－1922年(大正11年)
出身地：佐賀県



旧大隈重信邸

旧大隈重信邸の概要(2/3)

【諸元】

- 名称 : 旧大隈重信邸
- 敷地規模 : 約8,000坪
- 建築年 : 明治30年(1897)
- 構造 : 木造平屋建和風
 主屋(旧)133坪 木造和風1階建 寄棟 草・瓦葺 下見板張
 主屋(新)110坪 木造和風1階建 寄棟 アルミ板瓦棒 下見板張
 附属建物:(旧)住宅2棟、物置1棟、浴室1棟、物入1棟
- 所有者 : 民間企業
- 設計者 : 不詳
- 施工者 : 不詳
- 文化財 : ー



1992年の旧大隈重信別荘
手前は神代の間外観

(出典:大磯町教育委員会『大磯のすまい』1992)

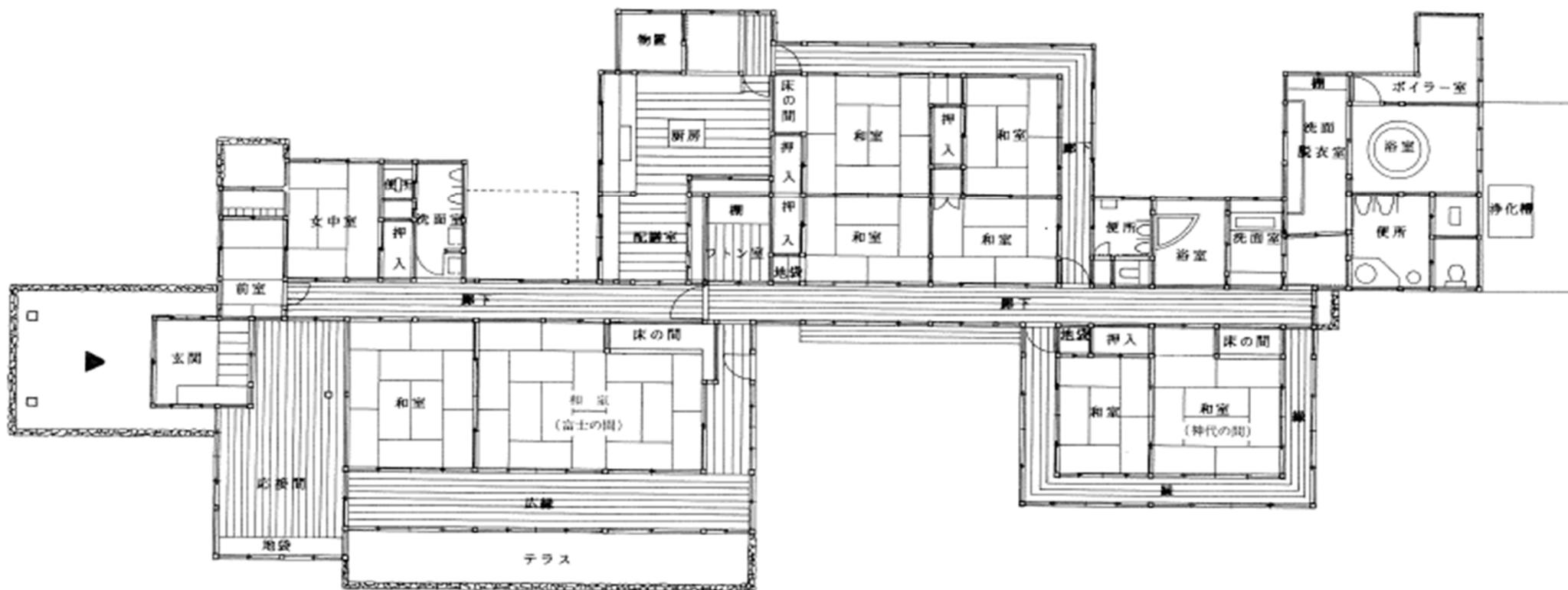
旧大隈重信邸の概要(3/3)

【建築物の特徴】

水回り部分や屋根などに一部改築が見られるが、居宅部分はほぼ往時のまま残されている。玄関を入り、応接広間から広縁を通過して10帖と16帖の和室に続く。16帖の大広間は「富士の間」と呼ばれ、社交家の大隈はここでよく宴を開いたという。

さらに東側の棟には、大隈が書斎として使っていた9帖の和室があり、神代杉が使われていることから「神代の間」と呼ばれている。

床の間は檜の一枚板、竹の床柱、照明器具は当時のものがそのまま使われている。



旧大隈重信邸平面図 (出典:大磯町教育委員会『大磯のすまい』1992)

旧陸奥宗光邸の概要(1/3)

不平等条約を改正 陸奥宗光

明治17年(1884)、憲法等の調査で渡欧。第2次伊藤内閣(明治25年8月～29年8月)の外務大臣に就任し、不平等条約である治外法権の撤廃を実現。

明治27年に大磯に別邸を建築。大正12年(1923)の関東大震災で一部大破したが、原形を残すように改築。竹林や果樹園、松林を有する日本庭園が現存。



第8代 外務大臣(第2次伊藤内閣)
生没年月日: 1844年(天保15年) - 1897年(明治30年)
出身地: 和歌山県



旧陸奥宗光邸の日本庭園(大磯町提供)

旧陸奥宗光邸の概要(2/3)

【諸元】

- 名称 : 旧陸奥宗光邸
- 敷地規模 : (旧)509坪
- 建築面積 : 約680m²(約206 坪)
- 建築年 : 大正14年(1925)
- 構造 : 木造平屋建和風
 主屋(旧)96坪 木造和風1階建 草・瓦葺
 主屋(新)110坪 木造和風1階建 寄棟 棧瓦 下見板張
- 所有者 : 民間企業
- 設計者 : 不詳
- 施工者 : 不詳
- 文化財 : 一



1992年の旧陸奥宗光別荘(聴漁荘)



玄関にかかる聴漁荘の偏額

(出典:大磯町教育委員会『大磯のすまい』1992)

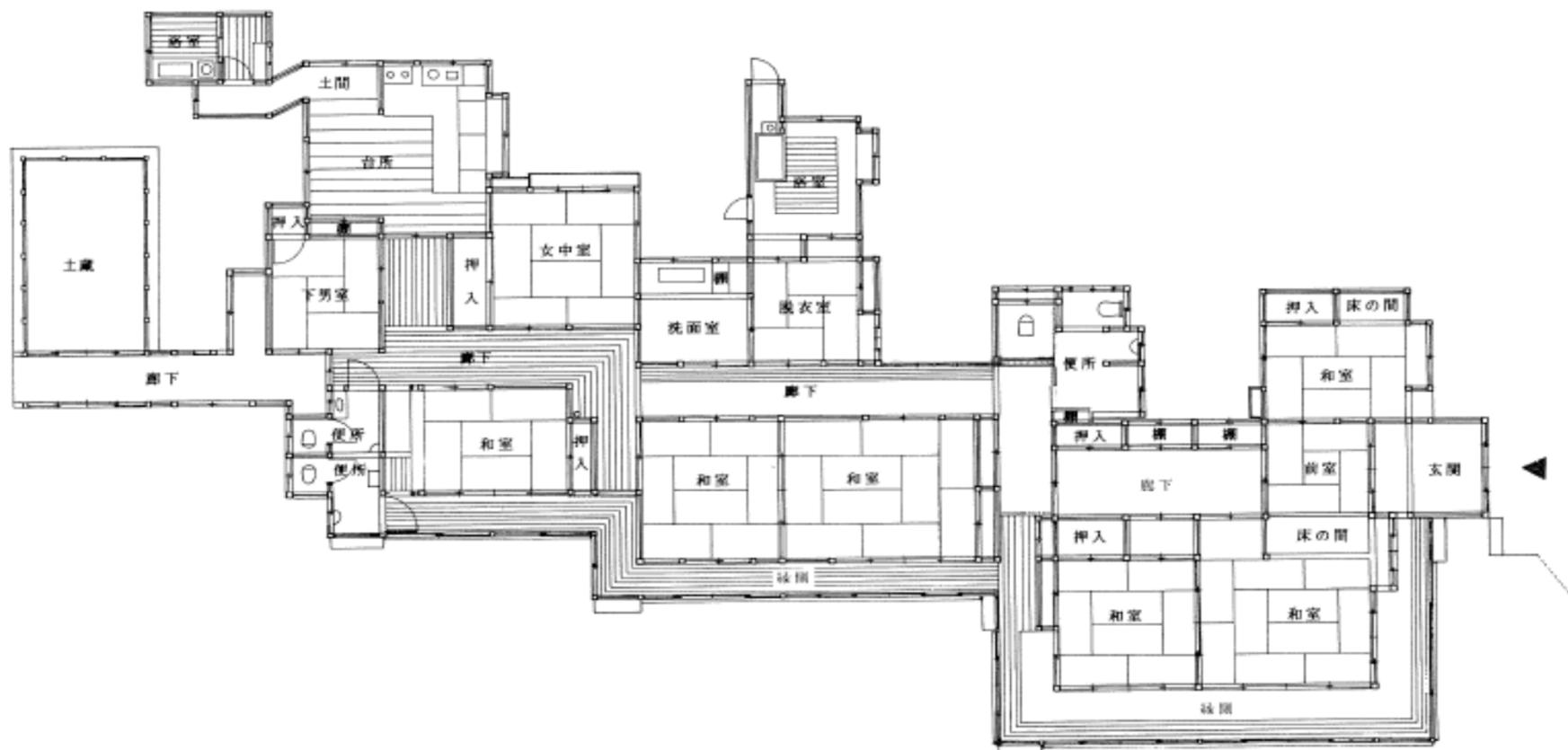
旧陸奥宗光邸の概要(3/3)

【建築物の特徴】

関東大震災により建物が傷んだため再建された数寄屋風の建物で、玄関と主な居室はほぼ復元されているものと推測される。

玄関を入ると取次の間があり、北側に書生室、南側に2間続きの応接間兼主人室があり、三方畳廊下が廻る。西側には10帖と8帖の家族用の部屋が続く。家族室の北側には洗面所や浴室等があり、浴室には当初からシャワーがあった。

また、客用、家族用、使用人用の便所が設けられているほか、浴室と化粧室の間の床張りが隣接する旧大隈重信邸の廊下と同じデザインであるため、同じ職人が入っていたことも考えられる。



陸奥宗光邸平面図 (出典:大磯町教育委員会『大磯のすまい』1992)

① 大磯町の概況

② 明治記念大磯邸園の立地、まちづくりの方向性

③ 明治記念大磯邸園に関する人物及び邸宅の概要

④ 明治記念大磯邸園に関連する取組

邸園文化圏再生構想(神奈川県が平成17年度より実施)

相模湾沿岸地域及び箱根地域（14市町）は、明治期から別荘地・保養地を形成し、首都圏で活躍する政財界人・文化人らが滞在し交流する地域として発展。

所有者の維持管理の困難性などの理由により、歴史的建物とともに緑豊かで良好な景観が急速に失われつつあり、官民協働による保全・活用の取組が必要。

「邸」宅+庭「園」=邸園
「邸園」*文化=「邸園文化」



近代和風



マンション等に

	近代洋風	近代和風	計
	14市町	14市町	14市町
1984年	367件	-	1675件
2000年	-	1308件	
2010年	158件	841件	999件

約40%減

“邸園文化圏再生構想”とは

神奈川県が取り組んでいる、相模湾沿岸地域一体に残る邸宅・庭園等を活かしたまちづくり構想。

当地域の歴史文化を育み、人々の心に残る景観をかたちづけてきた邸宅・庭園や歴史的建造物を官民協働により、新たな文化発信や、地域住民と来訪者による多彩な交流の場として保全活用し、地域の活性化につなぐ構想。

- ① 大磯歴史文化公園ゾーンの形成
- ② 湘南邸園文化祭<邸園活用イベント>
- ③ 邸園(歴史的建物)保全活用推進員の養成
 <保全活用の専門家の養成>



毎年開催される「湘南邸園文化祭」(パンフレット)

大磯歴史文化公園ゾーン

著名人が構えた邸宅が一定のゾーンに点在する大磯では、これらの邸園を利活用しながら、大磯の歴史や文化を活かした「魅力あるまちづくり」を県・町・所有者等と連携して取り組んでいる。具体的には、緑豊かで歴史的なたたずまいが楽しめる公園的なゾーンを形成するよう、「旧吉田邸再建」、「旧木下家別邸整備」、「邸園文化事業」(安田邸お茶会・邸園特別公開・町歩き等)等の取組を進めている。

旧吉田茂邸の概要

- 昭和期の総理大臣経験者・吉田茂が本邸として過ごした邸宅等を、歴史的・文化的遺産として活用。
- 平成21年3月に焼失したが、県が敷地を県立大磯城山公園旧吉田茂邸地区として整備し、町が建物を再建。
- 吉田茂の生活空間と交流空間を体感できる機能と吉田茂の業績や近現代史を学ぶ施設として平成29年4月より公開。



吉田 茂
 第45・48・49・50・51代
 内閣総理大臣

生没年月日
 明治11年(1878)9月22日～
 昭和42年(1967)10月20日
 出身地:東京都



豪壮で近代的な数奇屋檜造りの本邸は、建築家の吉田五十八の設計のもと、京都の宮大工により建設



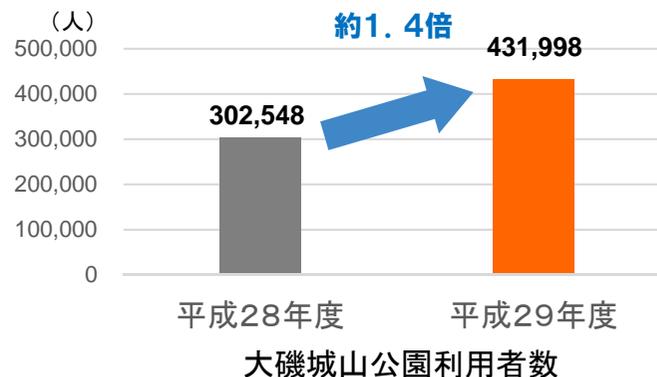
昭和36年頃に完成した日本庭園は、世界的作庭家である中島健の設計による池泉回遊式の庭園



食堂



書斎



旧吉田茂邸に係る経緯

- 明治17年 吉田茂の養父吉田健三が別荘として建築
- 昭和20年 吉田茂が本邸とする
- 昭和42年 吉田茂死去
 死去後民間に売却され、ホテル別館として使用
- 平成18年 保存・活用を求める要望書に5万人を超える署名が集まる
 最終的に県が都市公園として整備する方向性が定められる
- 平成21年 火災で焼失
- 平成24年 再建にあたって県と町で協定締結
- 平成28年 再建完了
- 平成29年 一般公開(4月)
 (大人500円、中高生200円)

旧吉田茂邸再建事業の概要

- 事業主体：神奈川県・大磯町
- 事業期間：平成24年度～平成28年度
- 総事業費：約5.4億円
- 諸元：木造一部鉄筋コンクリート造り
 建築面積 603㎡, 延床面積：743㎡

※写真は全て建物再建後のもの